

令和4年度津波防災講演会

これまでに繰り返し発生している東海・東南海・南海地震。
今後発生しうる最大クラスの地震を想定した南海トラフ巨大地震。
これらの地震や津波に、地域としてどう向き合っていくべきか、京都大学
防災研究所巨大災害研究センター矢守克也教授に御講演いただきます。

【講師】

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授

やもり かつや

矢守 克也 氏

【基調講演】

「人が主役の津波避難」



写真：江川地区避難タワー

○プロフィール

専門は社会心理学、防災心理学。災害情報伝達、避難行動のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開。

災害発生時に適切な判断、行動が取れるよう住民自身が避難の基準を設定する「避難スイッチ」や防災ゲーム「クロスロード」、訓練手法「個別避難訓練タイムトライヤル」、津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」等、様々な手法を考案・実践し、住民の主体的、実践的な避難の定着を図ってきた。

日時：10月29日（土） 14:00～15:50（13:30開場）

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 多目的ホール
（和歌山県田辺市新庄町3353-9）

申込方法：事前申込制（先着250名）※裏面参照
※手話通訳及び要約筆記を希望される方は事前にお知らせください

お問合せ：和歌山県 危機管理局 危機管理・消防課 TEL：073-441-2280

主催：和歌山県・和歌山県教育委員会・田辺市

協力：田辺市教育委員会

後援：内閣府政策統括官（防災担当）

知っていますか？『世界津波の日』

「稲むらの火」の舞台となった安政の南海地震が発生した11月5日は「世界津波の日」と定められています。県では、県民の皆様に津波に対する理解と関心を深めてもらうための啓発行事を実施しています。

WORLD
TSUNAMI
AWARENESS
DAY
5 NOVEMBER

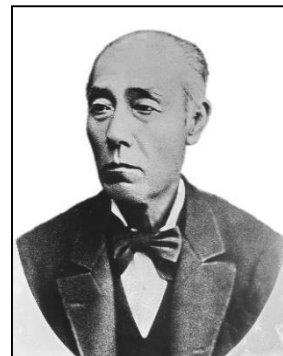


濱口梧陵と稲むらの火

1854年11月5日、安政南海地震による津波が広村（現和歌山県広川町）を襲った際、濱口梧陵は、稲むら（稲束を重ねたもの）に火を放ち、村人を高台に導くことで多くの命を救いました。

これが約160年もの間語り継がれている「稲むらの火」であり、広川町では、梧陵の功績を称えとともに、地震・津波に対する意識を高めるため、「津浪祭」、「稲むらの火祭り」を毎年開催しています。

また、この「稲むらの火」の故事にちなみ、11月5日は『世界津波の日』と定められており、県では、県民の皆様には津波に対する理解と関心を深めてもらうため、啓発行事を毎年開催しています。



津波防災講演会 参加申込方法

参加を希望される方はハガキ・Eメール・FAXに次の事項を記入の上、下記までお申し込みください。

- 1 申込者（氏名・ふりがな）
- 2 住所
- 3 電話番号
- 4 参加者（氏名）

※参加者全員分記載してください。

申込締切日 10月14日（金）【必着】

※事前申し込みが必要です。

※新型コロナウイルス感染症対策として定員500名の会場で先着250

名とし、座席間隔を広めにとって開催します。

※体調のすぐれない方は、来場をご遠慮下さい。

※今回の申込によって取得した個人情報は、当該講演会に係る連絡または参加確認以外に使用しません

※講演会当日、大雨・洪水警報等の気象情報が発表されている場合、中止とさせていただきます。

津波防災講演会 参加申込書（FAX用）

申込者

ふりがな
氏名

住所

電話番号

FAX番号

参加者

（氏名）①

②

③

④

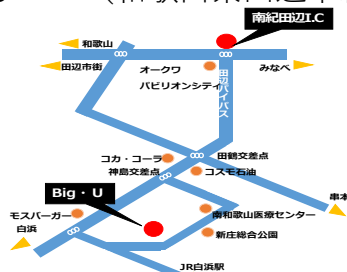
⑤

※手話通訳・要約筆記が必要な方は○印を記入してください。

手話通訳（ ） 要約筆記（ ）

会場案内

和歌山県立情報交流センターBig・U
多目的ホール（和歌山県田辺市新庄町3353-9）



【南紀田辺I.CからBig・Uまでの地図】

【公共交通アクセス】

○JR白浜駅からタクシーで約10分
（JR白浜駅からバスを利用する場合）
明光バス「南和歌山医療センター前バス停」から
徒歩で約10分

【お車でのアクセス】

○阪和自動車道「南紀田辺IC」から車で約10分
※できる限りお車の乗り合わせをお願いします。

参加申込先・お問い合わせ

和歌山県総務部
危機管理局危機管理・消防課

〒640-8585
和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地
電話：073-441-2280
FAX：073-422-7652
E-mail：e0116001@pref.wakayama.lg.jp